

# か かん けん 河 環 研 だ よ り

サツキマス



- 1 所長あいさつ
- 2 標識サツキマスを探しています
- 3 冷水病に強いアユ種苗の養殖実用化研究

## 1 所長あいさつ

当研究所の試験研究の推進につきましては、日頃から格別の御理解と御協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

当研究所は、前身である岐阜県水産試験場の誕生から60年、岐阜県河川環境研究所に組織改編されてから7年が経過しており、これも偏に皆様の御支援御協力の賜物と心から感謝申し上げます。現在、各務原市川島笠田町の施設を本所とし、下呂市萩原町の施設と2箇所ですべて試験研究を行っています。

当研究所では、「人と魚が共存する豊かな水域環境の創出と水産業の振興」を基本目標に掲げ、水域における生物多様性の保全及び漁業資源の増養殖技術の開発などに取り組んでいます。

水域における生物多様性の保全については、県民共有のかけがえのない財産であり後世に引き継ぐべき自然環境や野生生物を守るため、希少水生生物の保護繁殖、生態系に配慮した水域環境の保全・修復、外来生物の影響評価や管理手法などの調査研究を行っています。

漁業資源の増養殖技術の開発については、アユ、マス類を中心とした漁業資源の増養殖のため、河川漁場の有効活用や付加価値の高い養殖魚種の開発、病気に強い優良な系統の確立などの調査研究を行っています。

また、県民の皆様と協働した水域環境や希少魚に対する保全活動、水産関係の皆様への技術提供や魚病診断、研究成果発表会や研究所一日開放などを行い、研究成果の普及啓発にも積極的に取り組んでいます。

今後とも、皆様の御意見を拝聴しながら、基本目標達成に向けて試験研究を進めて参りますので、一層の御支援御協力をお願い申し上げます。

平成24年6月

岐阜県河川環境研究所長 松永良治

## 2 標識サツキマスを探しています

当研究所では、木曾川と長良川でサツキマスの標識放流を行っています。ヒレにプラスチック製の標識タグが付いたサツキマスを採捕された方は、タグの色および採捕場所を下呂支所までお知らせください。タグは以下の6色で、背ビレまたは尻ビレの近くに装着しています。詳しくは、当研究所のホームページ(<http://www.cc.rd.pref.gifu.jp/fish/>)をご覧ください。

(下呂支所 徳原)



### 3 冷水病に強いアユ種苗の養殖実用化研究

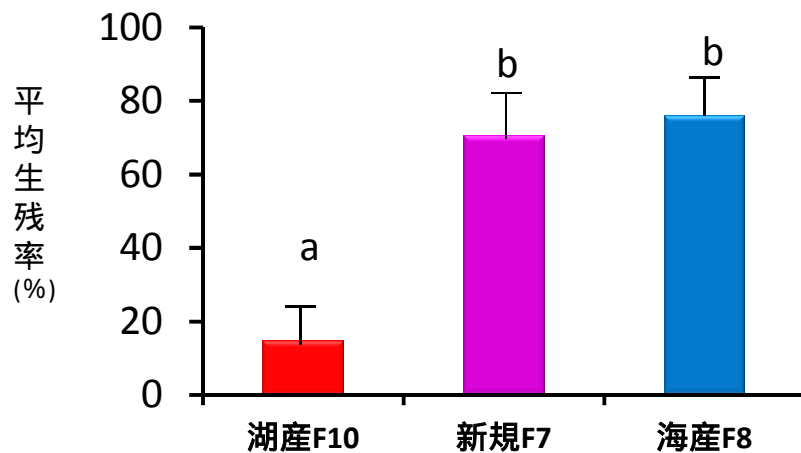
当研究所では、養殖用として冷水病に強いアユ種苗の開発に取り組んでいます。一般に養殖場では、琵琶湖産系や海産系のアユが飼育されていますが、例えば琵琶湖産系アユは低水温型、海産系のアユは高水温型というように種苗ごとに固有の養殖特性があるため、生産者は、飼育水温など養殖場の飼育環境に適した種苗をそれぞれ選択し生産している。このため、実用化に際しては耐病性形質だけではなく、その他の形質の養殖場への適合が課題となります。そこで当所は、耐病系統の選択肢を増やすために、海産アユと湖産アユを交雑し双方

の特性を併せ持つ系統と海産アユのみをもとに作出した系統の2系統を開発しました。両系統に冷水病耐病選抜を実施したところ、実験レベルでは、両系統ともに冷水病の人為感染に対する高い生存率を達成しました(図)。

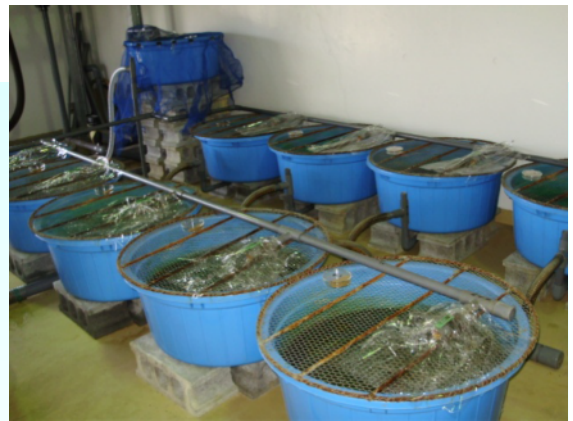
そこで平成22年9月から県内の2養魚場を対象に2系統の実用化試験を行っています。この試験を通じて、両系統の養殖場ごとの適性を見極めると共に、実用上の問題点を一つずつ克服することによって、養殖場における冷水病被害の抑制に貢献していきたいと考えています。

(資源増殖部 荻谷)

#### 実験感染による各系統の生存率



垂線は標準偏差を示す。  
同じアルファベット記号間には有意差がないことを示す  
(Tukey's HSD Test  $p < 0.05$ )



平成24年度の職員の異動は次のとおりです。

新任者

- 松永良治 所長(前 部長 研究員 兼 生態環境部長)
- 杉山茂樹 課長補佐 兼 管理調整係長(前 医療整備課)
- 太田雅賀 部長 研究員 兼 生態環境部長 (前 薬務水道課)
- 水野守孝 部長 研究員 兼 支所長(前 可茂農林事務所)
- 梶野弘司 管理調整係(支所)主査  
(前 高山土木事務所 兼 飛騨建築事務所)

他機関への異動者

- 南谷繁彰 各務原西高
- 石樽和成 統計課

退職者

- 佐伯秀紀 前所長